

投げかけられる
エビデンス主義への疑問

薬

剤の国内の治験データは、PMDA（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構）のホームページに公開されている。例えば販売許可を受けるための申請資料概要、審査報告書、インタビューフォーム、薬剤の添付文書。そんな誰もが閲覧できる書類やデータを引用して、抗認知症薬のエビデンスが「どうやって作られたのか」を、具体的な根拠をもって解説したのが本書だ。

PMDAで公開されているデータによれば、「アルツハイマー型抗認知症薬4種類すべてが、日本での治験に失敗していた」と著者。しかし薬は承認され、エビデンスの名のもと、現在も処方され続けている。詳細は本書に譲るが、まさに「エビデンスとは何なのか」を問うている。現にフランスは2018年8月から抗認知症薬4種類を保険適用外としている。指示通りに飲ませることに開始し、ちな、認知症の人の服薬支援。だが、実は利用者の日々の様子をきちんと観察し、薬がどのように影響しているのか医師にしっかり伝える、そんな基本的なことが、結果的に利用者と介護者を守ることにつながるのかもしれないと思った。

『抗認知症薬の不都合な真実』

長尾和宏、東田勉 ● 著（発売：現代書林）550円（税抜き）

